

意見等一覧表

【協議事項】

(1) 生活交通確保維持改善事業に係る事業評価（案）について

意見：1件

意見等内容	事務局回答
公共交通を地域の担い手が取り組む事業として、地域に周知・理解されてきており、目標に達しなかったものの着実な運用がなされていると一定以上の評価ができる。	引き続き運行主体と連携し、地域への周知・理解を進め目標達成に向けて取り組んでまいります。

(2) 自家用有償旅客運送（交通空白地）に係る更新登録（案）について

意見：なし

(3) 富津市地域公共交通計画の策定方針（案）について

意見：2件

意見等内容	事務局回答
<p>5 基本的な策定方針</p> <p>記載に努める事項</p> <p>③観光の振興に関する施策との連携に関する事項</p> <p>上記に「スポーツ振興」を加えることも検討したらと思いました。</p> <p>観光及びスポーツの振興に関する施策との連携に関する事項</p> <p>概要</p> <p>富津浅間山バスストップ近隣に、浅間山運動公園があり、高速バスの利用促進として、市外の方にもスポーツ施設の利用促進を図る。</p> <p>また、市内のスポーツ施設への交通手段として公共交通の利用促進を図る。</p>	<p>国が発行している「地域公共交通計画等の作成と運用の手引き」において、地域公共交通計画は、まちづくりや観光振興などの地域活性化策と一体となった計画となることが望ましいとされており、</p> <p>計画策定にあたっては、スポーツ振興を含め、健康・福祉や環境などの多様な分野との連携についても記載に努めてまいります。</p>

直近（5年）の移動支援を継続するプログラムとして計画策定は必須と考えるが、SDGsの基本目標11-2（住み続けられるまちづくりを）では、「2030年までに、女性や子ども、障がいのある人、お年寄りなど、弱い立場にある人びとが必要としていることを特によく考え、公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が、安い値段で、安全に、持続可能な交通手段を使えるようにする。」を掲げており、富津市もこの方向に向かうことが最低条件となってきました。

今回策定検討の5年、そしてその次の5年で2030年を迎えることになるので、次期計画策定においては、中期的な視点を盛り込みながら、まちづくりと一体となった公共交通計画の策定ができるよう期待する。

さらに、富津市は、公共交通と福祉交通の連携をNPO法人わだちさんと取り組んでいる自治体であり、将来的には、公共交通と福祉交通を一体的に議論できる、例えば、地域公共交通会議と福祉有償運送運営協議会を併合して地域の移動手段を考える会議体への移行等、地域の移動ニーズにこたえられる体制を是非ともご検討いただきたい。

SDGsの基本目標に掲げられた視点も取り入れつつ、持続可能な行政経営にも資するまちづくりと一体となった計画の策定に努めます。

また、公共交通と福祉交通の連携は重要であることから、両交通を一体的に議論できる体制の整備に関し、先行事例などを参考に検討してまいります。